地域との連携・協働を重視した
タイムライン（学校防災行動計画）の作成と避難や防災意識を高めるための取り組み

― 特別支援学校における防災計画と防災教育のあり方 ―

長野県上田養護学校

1 はじめに

土手を挟んで左が千曲川、右が本校小中学部棟

本校は上田市の東部，東御市に近い地域にある知的障害特別支援学校で，開校 42 年を迎えた本校には，小学部・中学部・高等部・訪問教育部に 217 名（令和２年 12 月現在）の児童生徒が在籍している。学校のすぐ横には冬，白鳥が飛来する千曲川が流れ，その土手では小中学部の児童生徒が散歩をしたり，高等部の生徒は毎日の日課の中でマラソンを行ったりして，学校生活を送っている。

しかしながら，この自然豊かな千曲川が，時には私たちに牙をむき危険な場所となることも事実である。令和元年，台風 19 号の際には，すぐ近くの地域で越水が見られ，主要道路を結ぶ橋が，台風によって流される被災の現状が見られた。また，本校の立地場所は，長和町から上田市丸子地域を流れてくる依田川との合流地点があり，北側には千曲川に流れ込む瀬沢川もあり，すぐ近くに３つの河川が流れている状況である。そのため，大雨等で千曲川の水位が上がった場合には，早い段階でのタイムライン（学校防災行動計画）に沿った対応が必要不可欠と考え，地域の方々にもご協力いただきタイムライン（学校防災計画）作成のための検討を重ねてきた。

今年度は，「学校安全総合支援事業」として，学校防災支援アドバイザーの立正大学　白神晃子先生，信州大学　廣内大助先生，千曲川河川事務所　小林卓生様に助言をいただきながらタイムライン（学校防災行動計画）に沿った引き渡し訓練の実施を地域の方々や消防団の方々の協力をいただきながら実践したり，児童生徒・職員・保護者・地域の方々とともに防災授業や防災ポーチ研修を行ったりし，防災に対する意識づけを大切にして進めてきた。

2 長野県上田養護学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画」「危機管理マニュアル」によって，災害時の防災に備えている。防災組織は，本部，連絡，消火，搬出，救護，安全確認，避難誘導の７つの係を編成し，全職員で組織している。また，年度当初に学校運営計画にて計画している避難訓練，引き渡し訓練，緊急地震速報対応訓練を実施した。

3 学校防災アドバイザーの関わり

（１） タイムライン（学校防災行動計画）の作成と周知

令和元年度 12 月に学校防災アドバイザーの方々，地域の自治会長，PTA 会長，行政の担当者等地域の

方々を本校に招き，タイムライン作成会議を実施した。ブレーンストーミングを用いながら，いつどこでどのような活動を誰が行うのかということを具体的に思いつくことをあげ，参加者全員で検討を行うことができた。令和２年，６月，職員用のタイムラインを，９月に保護者用のタイムラインを配布し，周知することができた。学校防災アドバイザーの方々には，細部にわたって丁寧な指導をいただき，タイムライン作成につながった。

（２） ２次待機場所（2 次避難場所）変更

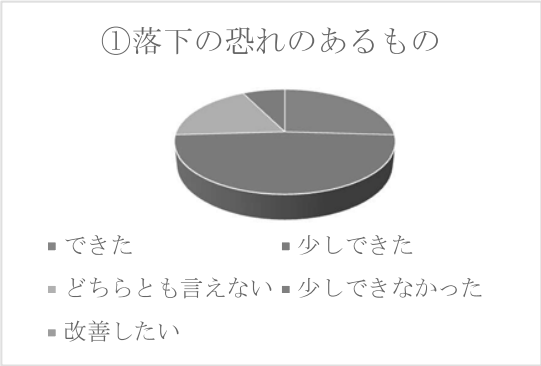
千曲川の過去の増水データを基に，学校での引き渡し時間を 60 分とし，それ以降は学校にとどまらないこととした。地域や行政の方々と連携し，２次待機場所（２次避難場所）を変更することができた。

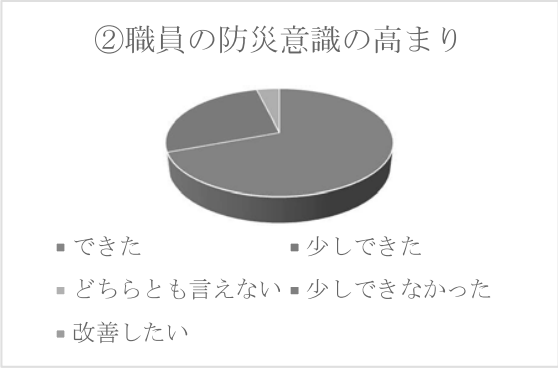
（３） タイムラインの計画に沿った引き渡し訓練

タイムラインの計画に沿った引き渡し訓練を学校防災アドバイザーの方々の指導のもとに実施することができた。大幅な保護者のルート変更だったが，誘導方法や視覚支援の利用，学校周辺の方々の理解も得ることができ，安全に実施することができた。また，上田市の第 10 分団消防団の方々も来校して下さり，中でも中学部のスクールバス待機→引き渡しについては，迅速に２次待機場所に移動ができるという点と引き渡しにスムーズだった点から大変有効な方法として認めてもらった。今後の訓練計画に生かしていきたい。

（４） 避難訓練・緊急地震速報対応訓練

本校は，広いスペースをパーテーションで仕切るような可動式の壁が多く，収納が少ないという教室環境の元，地震に対する備えとしての，教室環境整備が課題であったが，避難訓練や緊急地震速報対応訓練の事前確認を通して教室環境における意識づけを少しずつ取り組むことができ始め，固定等を始めた部，教室があり，職員の意識の変化も感じることができた。





第２回避難訓練後の反省（アンケート調査）から

（グラフ：①「落下の恐れのあるもの」　②「職員の防災意識の高まり」）

（５）児童生徒の実態に合わせた視覚支援と防災授業

知的障害や自閉スペクトラム症の特性がある児童生徒の実態に合わせた視覚支援や防災授業を検討し，powerpoint を中心とした視覚支援教材や授業展開を検討し，職員に教材提供することができた。

（６） 防災ポーチ研修

小学部・中学部・高等部・寄宿舎・地域保護者と５回に分けて，立正大学の白神氏が提唱する防災ポーチづくりの４つの視点を中心に防災ポーチ作り研修会を実施することができた。

（写真：保護者の方向けの防災ポーチ研修会の様子）

4　事業の成果及び今後の課題

「今年度の事業の成果」

・学校防災アドバイザーからの助言や,千曲川河川事務所からの客観的なデータ提供や地域の消防団からアドバイスをいただきながら,児童生徒・職員の命を守るタイムライン（学校防災行動計画）に沿った引き渡し訓練を実施することができた。また,その際には,地域住民の方々や消防団の方々が来校して下さり,地域との連携・協働を行うための確認をすることができた。

・２次待機場所（２次避難場所）をスクールバスの駐車スペースや児童生徒が施設を利用することを鑑みて,地域住民の方々の理解を得つつ,空間を共有できるスペースの確保ができる指定広域避難所に,行政との連携で変更をすることができ,より安心安全を重視する取り組みができた。

・事前に地震により,荷物の落下や,家具の移動等がないように,日頃から教室環境の整理整頓の意識づけや家具の固定を実施し始め,避難訓練や緊急地震速報対応訓練を実施することができた。

・引き渡し訓練前に,児童生徒の認知発達に合わせたシンボルを用いた視覚支援教材や,「おはしも」の肯定版視覚支援を提示したことで,自閉スペクトラム症の児童生徒が不安定になることが少なくなった。

・「ダンゴムシ」のポーズをあらかじめ練習しておいたことで,9 月に行われた避難訓練ではできなかった机の下に隠れる行動が 11 月の緊急地震速報対応訓練では,できるようになった児童生徒も見られた。

・防災に対する意識を高めるために職員・保護者・地域の方々向けの防災ポーチ作り研修を実施することができた。保護者の中には,待つ時間用に作ったという手作りの遊び道具を紹介する方や、職員の中では防災ポーチを作って参加して下さる方がおり、お互いの意識を高め合うことができた。

「今後の課題」

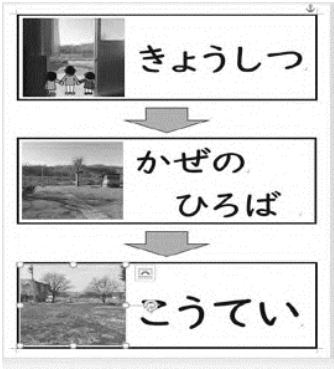
・今年度,タイムラインの作成や防災に対する意識を高めるための授業や研修等を初めて行うことができた。本校の水防に関する危険度は今後も変わらないと考える。そこで,継続的にタイムラインの更新や意識を高めるための仕組みづくりや活動をどのように実施してくのか,より具体的に前年度の計画段階で検討できるように進めていきたい。

5　まとめ

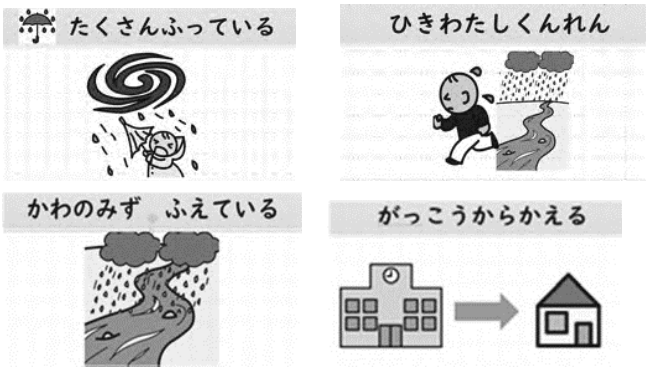
学校防災アドバイザーの方々に学校訪問をしていただいたことは,職員が本校の置かれている立地条件を理解し,危機意識を高めていくことにつながったと感じる。今後も命を最優先とし,217 名の児童生徒と職員・迎えに来る保護者が安全に避難できるようなシステムづくりや意識づけを高めるための取り組みを地域の方々と連携・協働しながら進めていきたいと考える。

6　参考資料

「視覚支援を用いた避難経路図」



「視覚支援を用いた引き渡し訓練 powerpoint」



家庭用　上田養護学校タイムライン（学校防災行動計画）　令和２年９月

【基本的な考え方】
①児童生徒をより安全な段階で、保護者に引き渡す→レベル２
②引き渡し後の保護者や教員の安全も考え、余裕をもった避難を行う
レベル１の水防団待機水位０．８ｍで※「引き渡しの可能性があります」
レベル２の氾濫注意水位　１．９ｍで※「引き渡しのためお迎えお願いします」

2次待機場所（避難場所）
神川地区公民館
住所：長野県上田市蒼久保1212-1
電話：0268-71-6553
最寄り駅：信濃国分寺駅

作成：　上田養護学校　防災安全係

警戒レベル	洪水予報	生田の観測地点	上田養護学校	保護者
レベル1	警報級の可能性		前日まで大雨台風情報があった場合、休校の検討。休校が決定したらオクレンジャーで保護者連絡を行う。	オクレンジャー受信「明日は、休校になります。」
レベル1	警報級の可能性	水防団待機水位0.8m	水防団待機水位0.8mになったら、オクレンジャーで「引き渡しの可能性があります」という連絡を行う。 ※オクレンジャーの返信のない家庭に、担当職員から電話で確認をとる。 ※学校体制を整え、引き渡しの準備を行う。	オクレンジャー受信「お迎えの可能性があります。」 ※既読していない場合、担当職員から電話連絡がくる。
レベル2		氾濫注意水位1.9m	氾濫注意水位1.9mになったら、「お迎えに来てください」という連絡を行う。 ※単独通学の生徒もお迎えにきていただく ※部ごとに生徒を掌握しながら、引きわたす	オクレンジャー受信「引き渡しの為お迎えに来てください」→返信「どのぐらいでお迎えに来ることができるか時間を記入」→お迎えにくる ※ラミネートされた名前カードをフロントガラスに、名前を見える方を外に向けて、見えやすい場所に掲示する。 ※指定の場所にお迎えに行き、引き渡しカードにサインをし、児童生徒と一緒に帰宅する。 小学部 1年　1組 うえだはなこ
			小学部：小学部棟非常口より引き渡し 中学部：隣接地スクールバスより引き渡し 高等部：小学部玄関より引き渡し なのはな：高等部玄関より引き渡し ※児童生徒の実態に応じて、レベル１水防団待機水位の段階で引き渡し予定 訪問学級：登校している場合は、レベル１の段階で保護者とともに下校予定	
レベル2		氾濫注意水位1.9m	※オクレンジャーから50分後→引き渡しが完了していない保護者へ神川地区公民館に移動することを電話連絡 ※およそ60分後二次避難開始 神川地区公民館への移動は、 ①スクールバス ②スクールバスに全員乗車できない場合のみ職員の車で移動する。	※オクレンジャーから50分後に、2次待機場所（避難場所）である神川公民館に移動することを担当職員から聞く。非常時には、担任の携帯電話から連絡がくる。 ※オクレンジャーからおよそ60分を経過した場合は、神川公民館にお迎えに行き、児童生徒と一緒に帰宅する。
レベル3	氾濫警戒情報	避難判断水位3.1m	2次待機場所（避難場所） 神川公民館	学校での引き渡しは、オクレンジャー一斉配信後60分を目途とする。 ※水位上昇が想定を超えていく場合、60分を待たずに移動する場合もあるので、要注意！
レベル4	氾濫危険情報	氾濫危険水位4.0m		
レベル5	氾濫発生情報	氾濫発生		

＜水害・土砂災害の防災情報は、「警戒レベル」で避難情報を確認します＞

住民が取るべき行動	警戒レベル	避難情報等
命を守る最善の行動	警戒レベル５	災害発生情報
全員避難	警戒レベル４	避難指示（緊急）・避難勧告
高齢者等は避難	警戒レベル３	避難準備・高齢者等避難開始
避難行動の確認	警戒レベル２	大雨注意報・洪水注意報
災害への心構えを高める	警戒レベル１	警報級の可能性

（文責　自立活動専任・防災安全係主任（防災士）　宇野千登世）

安曇養護学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

―　学校防災アドバイザー派遣・活用事業　―

長野県安曇養護学校

１　はじめに

長野県安曇養護学校は池田町会染内鎌に位置しており、令和２年度は小学部・中学部・高等部・高等部分教室の児童生徒１７９名が在籍している。北方面は小谷村、南方面は塩尻市の広域から送迎や自力通学、スクールバスで登下校している。また、寄宿舎もあり現在は２５名の生徒が利用している。

東側の山斜面にはクラフトパークや美術館、西側には有明山が聳え北方に向けて雄大な北アルプスが連なっている。一級河川の高瀬川が近くを流れ、学校付近や上流には霞堤防があり、高瀬川氾濫時にはそこから水を逃がすような地形である。河川敷にはマレットゴルフ場や広場があり、穏やかな日には子どもたちの散歩コースにもなっている。

２　長野県安曇養護学校の防災体制について（概要）

防災教育としては、教室と寄宿舎で年間４回ずつ(火災３回、地震１回)避難訓練を実施している。大地震を想定した９月の避難訓練の際には引き渡し訓練も同時に実施しており、訓練の内容として想定される状況を毎年少しずつ変えながら、その都度明らかになる課題に向けて取り組んでいる。今のところ、水害に関わっての訓練は未実施である。

池田町のハザードマップによると、付近を流れる高瀬川氾濫時には５０センチ以下の浸水範囲であることもあり、昨年度(令和元年)の台風１５号や１９号による対応では、学校メールの機能を活用し、できるだけ早めの送迎や自宅待機依頼等の注意喚起にかかわる保護者連絡を行った。

【寄宿舎夜間避難訓練】

避難確保計画に関しては、浸水域であることや広域からの通学、寄宿舎を有していることからも、改めて実情に応じた計画の見直しの必要性を感じている。昨年度２月に行われた第２回学校評議員会で、高瀬川氾濫時においては内鎌地域全体が避難困難地域であることが確認されたこともあり、今後の対策に関わって池田町の関係者を交えながら情報交換を行う予定である。昨年度懸案だった防災備蓄品については、計画的に購入を進めている。

３　学校防災アドバイザーの関わり

上述のように浸水地域に指定され、広域の通学や平日寄宿舎生が滞在していることを考慮し、全校体制として早期の避難計画の周知徹底は急務であると考えている。防災アドバイザーから専門的知見をいただきながら、外部関係者や地域の方々と連携し、実情にあった避難確保計画を策定し直し安全対策を講じていきたい。

○　アドバイスの内容

①避難誘導時のタイムラインの作成

・　タイムラインについては誰が、いつ、どの段階で何をするのか、行動レベルで計画に入れ役割を確認すること。また、台風や大雨等事前準備が可能なものについては、インターネット、メールや電話等、情報入手方法についても具体的にしておくことが必要。

②関係機関等との連携

・　高瀬川については大町建設事務所、避難勧告等指示は池田町が情報発信するので避難する上で連携をしておくと良い。実用可能な計画にするために、学校だけでなく保護者や地域の方、その他関係者と情報共有を行い、周知・作成する機会をとることが大切。

③校内の避難体制

・　医ケア生の使用するバッテリーについては、実際に支援者が使える状況にしておくことが大切。また、車で二次避難することになった際、移動車のバッテリーを使用できるかどうかも確認必要。

・　地震の際、キャスター付きの TV 台や背の高い棚やロッカーは必ず固定し、落下する危険性の高い物は取り除くなどの対策を講じる。防災ポーチづくりや防災教育については、長野県内で実施している先行事例を情報交換してもよいので計画的に行う必要がある。

・　引き渡し訓練に関わっては、豪雨で校庭等使用不可能になることも想定し、ドライブスルー形式での車の誘導方法も検討する。

・　寄宿舎としては、できる限り早めに帰省することで危険を回避する避難計画にはなっているが、残留の児童生徒がいることも想定した寄宿舎のタイムラインも作成する必要があること。

・　備蓄食糧については、災害を想定すると給食のみの備蓄でなく計画的な購入が必要。

○学校として取り組んできていること

・防災教育の充実

想定を変えた避難訓練の実施

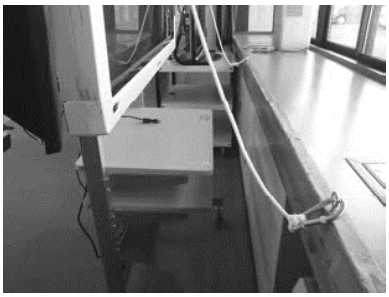
・保護者、地域への説明について

PTA 総会や常任理事会、評議員会で水害時の避難計画を作成していることを連絡・周知。

・防災備蓄品の購入

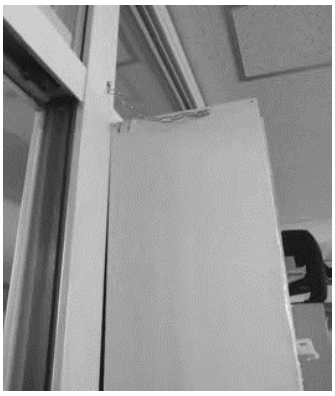
全校児生・職員分の食料と飲料水を PTA 予算で購入。

・関係機関との連携



【地震対策】

大町河川事務所、池田町防災担当に確認し、高瀬川警戒水位や避難警戒レベルの情報提供についての依頼確認
・日中避難のタイムライン作成および役割分担
・地震対策として、キャスター付きのTV台や高所棚の固定、写真フレームをガラス製からプラスチックに順次取替



4　事業の成果及び今後の方向

総合安全支援事業に参画させていただいたことで、保護者や関係機関、所在地の内鎌地区の方々とも連携でき、水害における安曇養護学校のタイムラインに関わり係を中心としてタイムラインを見直すことができてきている。今後も安心安全を確保する上で、安全防災係を中心に職員間で現状を確認しながら、発達段階や教育課程に応じた防災教育を継続的に取り組みたいと考える。

池田町の担当者と警戒宣言や避難所等の確認を行う中で、今後1000年先の防災を見据えたハザードマップの見直しを行うとの情報があった。引き続き、今後も池田町と連携しながら情報を共有し、地域住民の方も含めた水害時の避難計画を作成し、随時見直しを行う機会を確保する必要がある。

（文責　教頭　乾　由理子）

令和２年度　学校安全総合支援事業

実践報告集

発行年月　　令和３年２月

発 行 者　　長野県教育委員会